

ごあいさつ

井上家の先祖は16世紀の終わりに倉敷に土着し、鶴形山の麓に居を構え、阿知潟と呼ばれた周辺の干潟の開墾に従事したといわれます。当家は古くから村役人となる資格を有した「古禄」と呼ばれる13軒のうちの1軒で、江戸時代は年寄り役や百姓代など、他家と交替で務めていました。特に六世安兵衛(諱 永俊)は家を繁盛させ、享保6年(1721)、37歳の時に住宅を大規模に改修し、今残されている住宅の基礎を築きました。

300年が経過した当家住宅は倉敷市倉敷川畔伝統的建造物群保存地区の中で最も古い町屋と言われ、実際防火扉のついた倉敷窓など古い形式を残していて、平成14年(2002)に主屋、三階蔵、井戸蔵、土堀、家相図、敷地が国指定重要文化財に指定されました。しかし老朽化は激しく、早急な修理が必要な状態でした。平成24年(2012)、国、岡山県、倉敷市の補助のもと大規模な保存修理工事を施工して頂くことになり、令和4年(2022)9月に足掛け10年に及ぶ工事が完了しました。蘇った家の中に入ってみれば、職人さんたちの精魂込めた技術や、先人たちの工夫を感じることができます。

文化財として残されることになった当家住宅の公開を通して、江戸時代から伝わる日本の文化をまずは自分自身が学び、皆様と共有することができたらと思います。

令和4年10月

第16代当主 井上 典彦



利用案内

■ 開館時間

10:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

■ 休館日

月曜日・年未年始

(祝日、振替休日の月曜日は開館、翌日休館)

■ 入館料

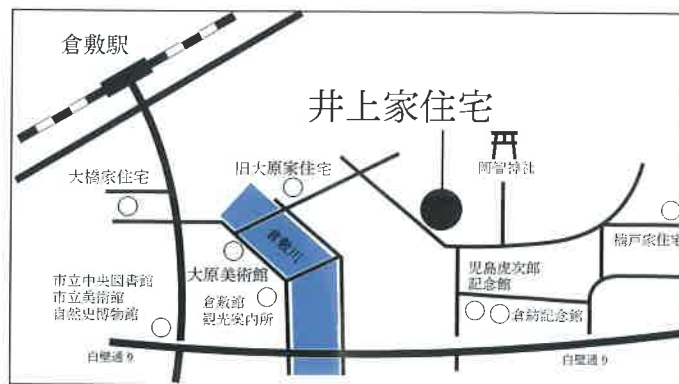
大人一般 500円(400円)

小中学生 300円(200円)

未就学児 無料

※()内は、団体20名様以上

交通案内



国指定重要文化財 井上家住宅

〒710-0054 岡山県倉敷市本町1-36

JR 倉敷駅より徒歩約13分

TEL 086-422-0714

HP <https://www.inoueke.jp>

ホームページ



inoueke.jp

井上家住宅

国指定重要文化財



当館の見どころ

1 土扉のある倉敷窓

正面2階の倉敷窓には、防火用土扉がついており、倉敷のまちに現存する唯一のものです。

2 大黒柱と登り梁

天井の開口部からは、屋根を支える登り梁や平成・令和の修理の棟札の付いた大黒柱などをご覧ください。

3 お土公さま

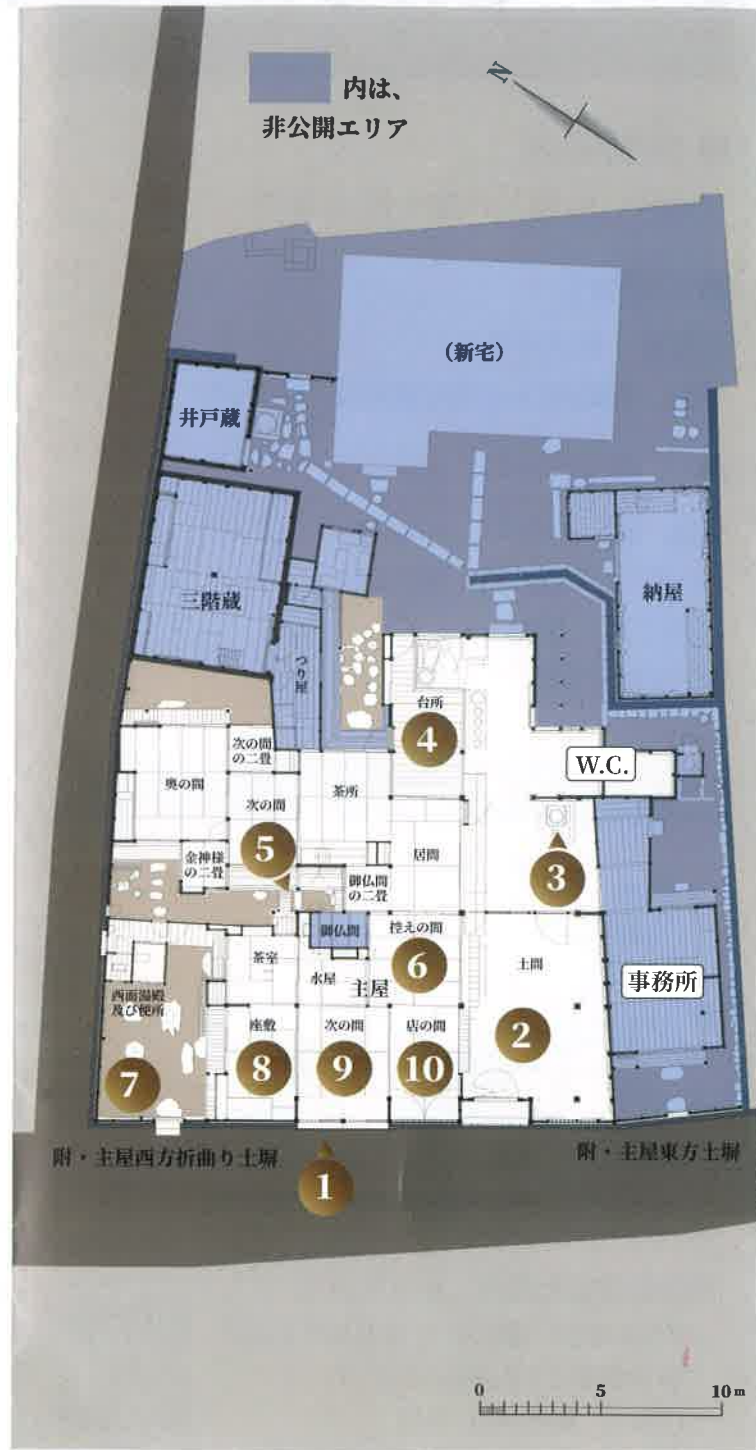
儀式用の竈かまどに、火と竈の神である「お土公さまどくう」が祀られています。

4 台所

発掘作業で明らかにされた竈や土間の洗い場などが復原されています。埋め込んである備前焼の水甕みずがめは天正11年(1583)の銘が刻んである倉敷市指定文化財。

5 太鼓橋

二畳間から見える太鼓橋は、当主の座敷と客人を迎える茶室を結びます。



6 杉戸

赤外線写真で、控えの間側には牛や人物など、水屋側には松と鳥の絵が描かれていることが確認されました。

7 雪見灯籠のある坪庭

第10代当主三郎右衛門はここで飼っていた鶴の絵を描いたと言い伝えられています。

8 藤井竹外の書

客間には、幕末の漢詩人、藤井竹外ふじいちくがいの書が張られた襖があります。

9 棹縁天井・網代天井

客間では、格式高い棹縁天井や手の込んだ網代織天井が見られます。

10 店の間の葺戸・摺揚戸

上下に分かれた板戸で、上の戸は上部が吊られており、はね上げて開ける形式の建具です。